

令和4年度 学校評価（自己評価） 報告

明德やちまたこども園

1 本園の教育理念・目標・方針

○ 教育理念

千葉明德学園、建学の精神は「明德を天下に明らかにせんとする者は、先ず其の知を致せ」である。これは中国の古典「大学」からの出典である。

明德とは人が天から得た、生まれながらに持つ優れた能力、人間として生まれながらにして持っている人間性を言い、「明德を明らかにする」とはそれを輝かせることである。その為にはまず、幼児期には健康な身体とその年齢らしい心の育ち、そして他者との対話力、直接体験を通じた知識と知恵を身につけ、徳と知、善悪の判断が出来る人間性を育てていくことと考えている。

○ 教育目標

自他を尊重し、五感を働かせて自らの生活を切り拓いていこうとする子

○ 具体的な目標

- ・元気な子 (身体を使った遊びを楽しむ)
(自分の思いを表現する)
- ・思いやりのある子 (友達と思いきり遊ぶ子)
(約束を守って遊ぶ)
- ・工夫する子 (新しい事に挑戦する子)
(遊びを楽しく工夫する子)

○ 教育方針・特色

- ・自然の中で、五感（見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触れる）を働かせ、直接体験を通して友達とかかわって遊ぶ。
- ・物を作る楽しさや、工夫する面白さを感じながら活動に取り組む。
- ・様々な事に出会い、心を動かし豊かな感性を育み、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちをくみ取ることが出来る。
- ・思いきり身体を動かす事を通して挑戦し、最後までやり遂げようとする気持ちを育む。

2 本年度のねらい

- ・子ども達が、それぞれの年齢らしくのびのびと身体を動かし、知恵を使って遊べる環境を園庭を中心として職員と子どもで創り上げていく。
- ・子ども一人ひとりの善さを大切に、それぞれの発達の課題を捉えて時期を逃さない様に援助していく。
- ・八街の豊かな農産物を生かし、自分達でも畑作りをするなど健康な成長を願って「食育」に取り組む。

3 総合評価

No	評価項目	評価のまとめ
1	教育目標・保育目標	93%が教育目標を理解していると答えているが、はっきりと捉えられていない者も7%いる。これからも具体的な子どもの姿をとって乳児打ち合わせ、幼児打ち合わせなどで話し合いながら共通理解をしていきたい。
2	教育過程・指導計画	指導計画を実施しながら評価反省をし改善に努めている。保育の中で具体的な子どもの育ちや生活を真摯に見つめ作成に当たっている。
3	保育の内容・対処法	保育中の事故に気を配り、また事故が発生した時に備えて看護師から救急処置についての講習を年1回は受けるようにしている。また、ヒヤリハットの顛末について記録し職員間で共有している。 子どもの発達について、クラス担任だけでなく、職員間で共通理解できるよう、クラス状況表に記入したり、昼礼で発表することが効果的であった。
4	保育者としての資質、保育の質の向上	それぞれ自己課題をもって保育に取り組んでいる姿は見られるが、それらを具体化し自覚して取りくみ続けていくことが大切と考える。 園内や教材の整理整頓については職員で声を掛け合って行っていきたい。
5	研修・研究	キャリアアップ研修など外部研修については、本人の希望をもとに積極的に参加できるようにしてきた。少しずつ日々の保育にも活かされているように思う。 配慮を要する子どもが多く入園してくる傾向があるため、研修を強化する必要があると思われる。
6	運営管理	感染症対策については昨年度に引き続き、看護師をリー

		<p>ダーとして効果的に進めることが出来た。</p> <p>施設設備の点検については用務を中心に効果的に行うことが出来た。</p>
7	保護者との連携、地域との関り	<p>ホームページについて、保護者からの要望もあり子どもの姿をもっとたくさん掲載できるよう各クラス担任も参加するようになった。遠方の祖父母も喜んでみているとの声もあった。</p> <p>四季折々に近隣の方々から農産物の提供を受けている。</p> <p>子育て支援センターの利用者と園児との関わりが自然に生まれ、その姿を見ての入園申し込みがある。</p>

4 今後取り組むべき課題

NO	課題項目	課題のまとめ
1	運営管理	<p>施設設備の安全環境の充実について、指導計画とリンクして、効率的かつ取りこぼしのない様に取り組んでいくと効果的に進められるのではないかと考える。</p> <p>園務分掌のスムーズな遂行については、分掌内容が分かりやすく引き継げるように役割毎の情報交換を持つようにしていく。</p>
2	教職員の資質の向上	<p>自らの学びへの課題をもって、自らの資質の向上に取り組む姿勢を大事にする風土をもてるようにしていく。</p> <p>近年明らかになってきた人の成長（生理的、生物学的、心理的、情緒的）などの乳幼児についての知見を情報として現場にフィードバックしていく。</p>